

# ヤマビルの生息域や生態で分かってきたこと

## ヤマビルの生息地域

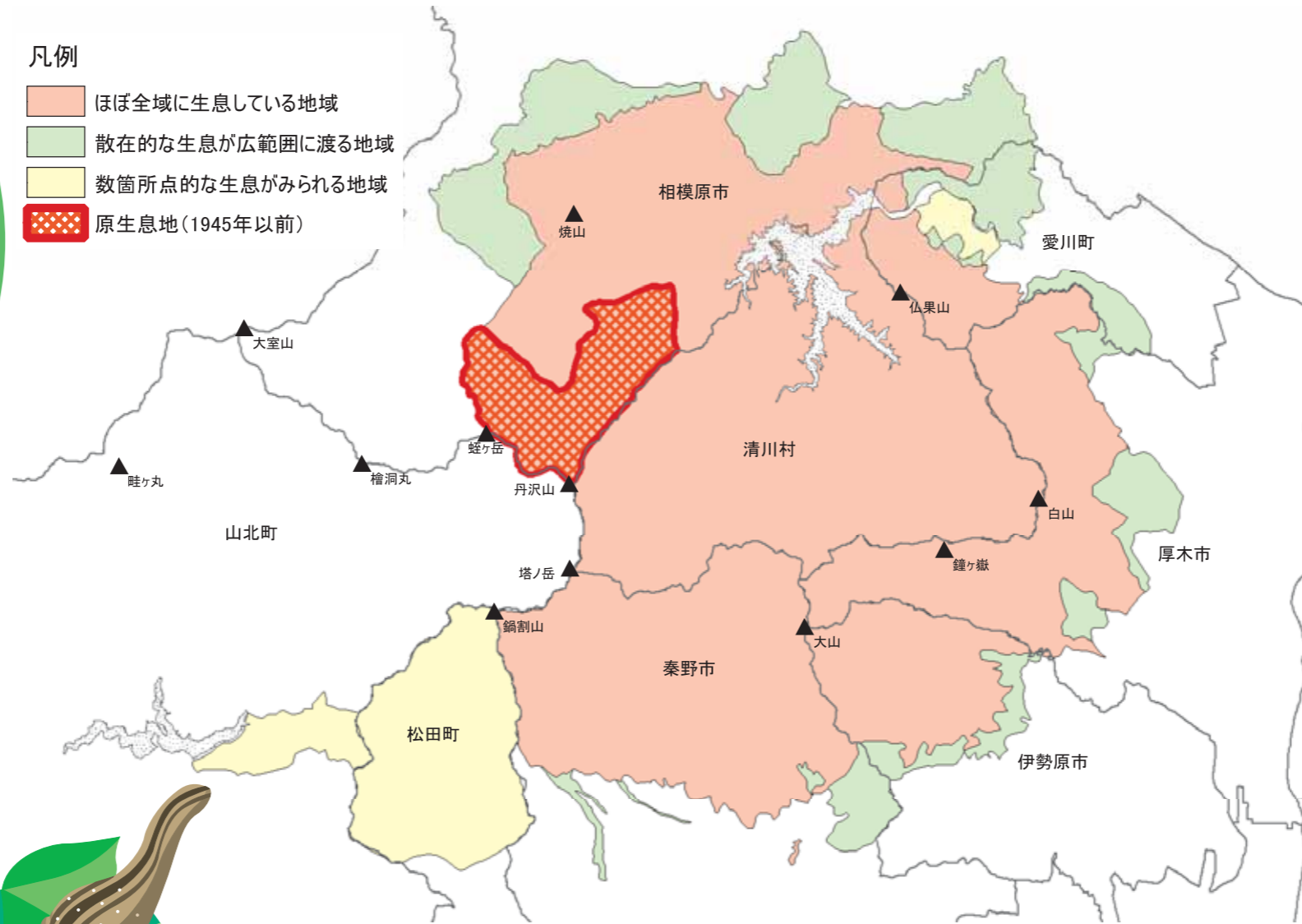
市町村などの協力を得て、集落（字）を単位にヤマビルの生息状況を区分したヤマビル生息マップ2007を作成しました。原生息地から北部と東南部に拡大していることがわかりました。

### ○2007年時点の生息地

- 丹沢北部：相模原市の一部（旧津久井町の東部、旧藤野町の南部）
- 丹沢東部：清川村全域、愛川町の西部、厚木市の西部
- 丹沢南部：秦野市の北部、伊勢原市の北部
- 丹沢西部：松田町と山北町の一部

### 凡例

- ほぼ全域に生息している地域
- 散在的な生息が広範囲に渡る地域
- 数箇所点的な生息がみられる地域
- 原生息地（1945年以前）



ヤマビル生息マップ2007年版



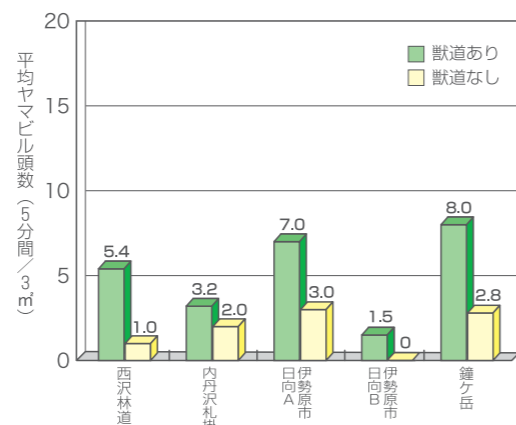
丹沢にある獣道



## こんな地点に多いよ

ヤマビルが多く生息する場所の状況を調査して生息密度に影響する要因を把握し、これを被害対策に生かすことが重要です。

神奈川県内の登山道や遊歩道などにおいて、ヤマビル生息数を調べたところ、獣道と交差している場所には、ヤマビルが多く生息することがわかりました。



## 他にも今、こんな研究をしています①

### ○ニホンジカの有穴腫瘍痕確認調査

ヤマビルの拡大防止策に役立てるため、ヤマビルがニホンジカに寄生したことを示す特定の痕跡（有穴腫瘍痕）を調査して各地域におけるニホンジカへの寄生状況を確認しています。

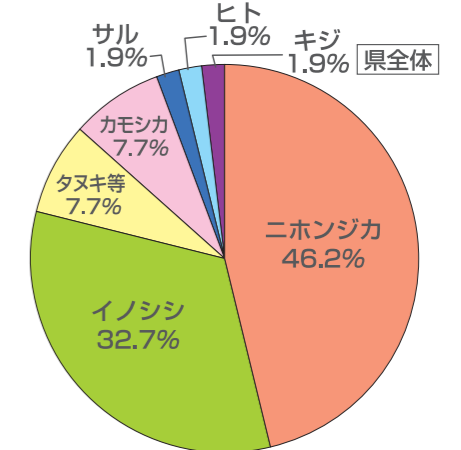
### ○密度特性調査など

ヤマビルが多く生息する場所の要因を特定するための調査などを行っています。

## 吸血される動物

ヤマビルが吸血する動物を明らかにするため、県内7地域で捕獲したヤマビルについて、ニホンジカなど16種の動物のうちどれから吸血しているかDNA検査により調査しました。その結果、最も多く吸血されていた動物はニホンジカであり、次に多いのはイノシシでした。

## ヤマビルが吸血した動物とその割合



注1：調査検体中吸血動物が判明したものの内訳です。152検体中52検体が判明しています。

注2：タヌキ等とは、タヌキ、キツネ、アナグマ、テンのこと。今回のDNA検査ではこれらの動物間の判定は困難であったため、タヌキ等としています。



ニホンジカの爪の間（ヒルがくっついている）